



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 令和3年4月30日
発行者 校長 芝田智昭

No. 360 5月号

学力を考える

いつもならゴールデンウィークのこの時期、心が浮き立つものですが、昨年と同じく我慢の期間となっています。状況の好転を信じて、引き続き感染予防を徹底しながら教育活動を進めてまいります。

今月9日に2年生以上を対象とした区の学力調査があり、来月27日には6年生を対象とした全国学力・学習状況調査があります。一口に学力と言っても様々な捉え方があり、時代によっても変化してきました。また、学力がすべてではないし、学力よりも大切なものはあります。

しかし、子どもたちが今後自分の目指す道を進もうとしたとき、身に付けている学力によって道が開けたり、逆に道が閉ざされたりすることがあります。こう考えると学力は、子どもたちが自分の将来を自らの力で切り開くために、備えておくべき資質とも言えるかもしれません。

私は現段階では学力を次のように捉えています。

学	- ぼうとする	三力	→【学習意欲】⇒向上
	- び方に関する		→【学習方法】⇒習得
	- んだ結果としての		→【知識技能】⇒定着

ここで分りにくいのが「学び方に関する力【学習方法】」だと思います。これは“何で”学ぶか、ということについての力です。例えば場所を知りたいなら電話帳ではなく地図を使う、考えをまとめたいときには用途に即した図表を使うなど、目的に応じて学習方法を適切に選択し活用する力を指します。

三つに順序性や優位性はなく、知識技能の獲得を実感して学習意欲に結びつくこともあるだろうし、学習方法の習得が知識技能の定着に役立つこともあります。三つの側面が互いに関連しながら学力は向上していくと考えています。

学力調査は実施して終わりではなく、それが始まりです。結果を分析し課題を明らかにして改善策を立案し、実際に行ってみて結果を検証します。その繰り返しによって学力向上が図られます。一方で我々指導者は、学力調査結果は絶対的なものではなく、その子のその時の力であり、学力のうちの一部を測定したものに過ぎない、との意識も忘れてはいけません。一人ひとりの子を見つめ、学習意欲の向上、学習方法の習得、知識技能の定着を目指し、授業改善をより一層推進してまいります。